

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 あやめが丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

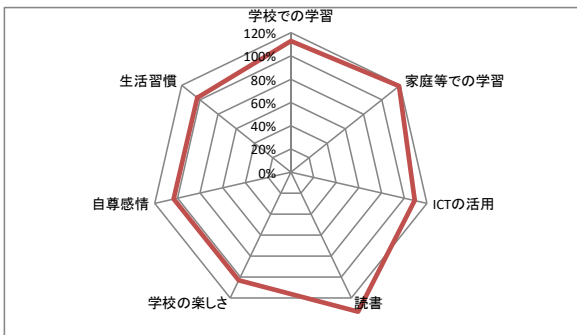
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に県や前項の平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題	
	努力が必要な問題	「読むこと」において表現の効果を考える問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に県や前項の平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題	
	努力が必要な問題	示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを問う問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に県や前項の平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを問う問題	
	努力が必要な問題	実験器具の正しい扱い方を問う問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「読書」に関する項目については、全国平均を大きく上回っている。 ・「学校での学習」「家庭等での学習」についても、全国平均より高くなっている。特に、自分の思いや考えをもとに新しいものを創り出す活動、自分の考えをまとめる活動、平日の家庭学習の時間において、全国平均を大きく上回っている。 ・「自尊感情」については、「自分にはよいところがあると思う」割合が、全国平均より低くなっている。 ・「ICTの活用」について、「使用している」割合は上回っているものの、「役に立つと思う」割合は下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ICTの効果的な活用の推進(ドリルアプリの活用、調べ学習や交流場面における活用の工夫等)
- 朝のスキルタイム、午後のステップアップタイム等での学力補充の取組の充実。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の取り組み方、基本的な生活習慣等における指導や保護者との連携の継続。